

海ワシ類におけるバードストライクの防止を目的とした 生息域内および域外での保全の取り組み

猛禽類医学研究所

猛禽類医学研究所は、希少猛禽類の救護や死因究明、野生復帰できない個体を活用して、問題解決のためのさまざまな技術や機材の開発に取り組んでいます。また、傷病もしくは死体で收容された個体の原因を探ることや現場での調査を通して、人間が環境に及ぼす影響に対する提案と実行を試みています。

【活動背景】

北海道では希少猛禽類であるオオワシやオジロワシが風力発電の風車に衝突する事故（バードストライク）が毎年発生しています。降雪、被害鳥を採食する野生生物がいることから、実際の被害件数はかなり多いことが推測できます。

【活動目的】

本助成活動では株式会社チャレナジーと共同でバードストライクが発生しにくい「垂直軸型マグナス式風力発電機」を用い、ワシがどのように行動するのかの視認実験を行いました。実験を通してマグナス式風車の安全性の高さを示すことが目的です。



マグナス式風力発電機の試験機



マグナス式風車の実証実験

【助成金の用途・活動結果】

助成金ではマグナス式風力発電機の試験機の製作・設置を行いました。実験の結果、ワシ類は、マグナス式風車を十分に視認しており、回転部へのとまりや接触も確認されませんでした。また、実験の結果はオンラインで報告会を行い一般に公開されました。

【団体からのメッセージ】

温室効果ガスを出さない自然エネルギーの活用が地球規模で求められる時代になっております。私たちは人間ファーストや動物ファーストではなく、野生動物とのより良い共生を目指す活動の一環として、野生鳥類のバードストライクが発生しにくい新型風力発電機の開発と早期の社会実装を目指しております。引き続き着目戴けますと幸いです。